

謹んで

石田秀実先生に捧げる

執筆者一同

石田秀実先生へ「贈る言葉」

真の「学者」と呼ばれるのにこれほどふさわしい先生を、九州国際大学がこれまで迎え入れ続けることが出来たのは、なんとという幸福な出来事であつたであらうか。病と敢然と戦いながら、つらい透析の合間を縫つて、ときどき学内の研究会などに顔を出していただけていたのだが、昨年をもつてついに退職される運びとなつてしまった。誠に残念でならない。

石田先生は中国の医学思想、中国古代医学史、道教の身体技法論、風水学、氣の思想、古代中国の性の技法、古代中国音楽論といった、これだけでも目眩くような「ご専門」の分野のみならず、さらに幅広く哲学、認識論における西欧と東洋の比較分析、それに現代の生命倫理学、環境倫理学までもを軽快なフットワークでカバーし、それぞれの分野で輝かしい研究活動を積み重ね、第一級の著作を弛まず世に送り出してこられたことは、先生の超人的な業績目録を一瞥するだけで誰の目にも明らかであろう。

我々は、石田先生の物事をとらえる視野の広さと理解の深さに常に驚かされてきたが、先生の的確な批評眼は鋭利なナイフのごとくいかなる対象にも切り込んでいった。しかしその透徹した眼が、実は感性豊かな耳、そして楽器をしなやかに奏でる指先と通底していることを知ったとき、身体技法の奥義は理論としてだけではなく、ご自身で常に実践されていることに感歎を禁じ得なかつた。石田先生は日本でも屈指の現代音楽作曲家であり演奏家でもいらしたのだ。先生が作曲された楽曲は超一流の演奏家達によつて演奏され、評価の高いCD作品集として残されている。

まことに本学において石田先生の教養を凌駕できる者はひとりもない。そして先生が教養学会に残された「遺産」は尊くそして大きい。石田先生は学会の創設当時から、その中心的役割を担われ、学術講演会をはじめとする学会の様々な活動に多大な貢献をなさつた。さらに、他の学会メンバーを含んで長らく運営されてきた「比較文化研究会」にも、創立メンバーとして寄与され、そこで醸成された、学問に対する自由で柔軟な雰囲気は溢れた学びの精神は、いまでも複数の「読書会」として残つていて、

このように、石田先生が九州国際大学にもたらした真剣な学びの息吹は、現在も脈々とわれわれ教員や卒業生のなかに息づいており、そしてまた将来に継承されんとしていられることをここに謹んで御報告したいと思う。

最後に先生の音楽の同志でもあり最愛の伴侶として献身的な介護を続けてこられた奥様に、教養学会を代表して心からの感謝の気持ちを述べさせていただくとともに、奥様と先生の御健康を衷心からお祈りする。

